

平成20年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	職種を問わず全職業人共通に求められる基盤力向上を目的とした教育プログラム開発		
法人名	学校法人 阪神専修学園		
学校名	ヘアラルト阪神理容美容専門学校		
代表者	半田まゆみ	担当者 連絡先	06-6412-1651
<p>1. 事業の概要</p> <p>近年、産業界における人材ニーズとして、職業人共通に求められる「基盤力」が重要視されてきている。本事業では、職種を問わず全職業人共通に求められる基盤的な力を抽出し、その中でも最も重要であると考えられる能力を醸成するプログラムを開発する。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>学生の問題解決力を醸成する上で必要な、教員が持つべき知識や指導法を習得出来るプログラムが開発出来た。同プログラムを用いた実証実験では、定性的では有るが、専修学校教員等参加者にとり有用なプログラムである事が確認できた。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>兵庫県下専修学校へのアンケート調査及びヒアリングから、職種を問わず全職業人共通の基盤力の中でも最も重要な力は問題発見力を含んだ「問題解決力」であることを抽出できた。全国の専修学校等の基盤力向上に向けた取り組みに関する実態調査を実施し、本テーマは全国的に感心の高いものであることが確認できた。学生の「問題解決力」を醸成する上で必要な教員が持つべき知識や指導法を習得できるプログラムが開発できた。</p> <p>③今後の活用</p> <p>本開発の主題となった、学生の「問題解決力」を醸成する為の教員の教育力向上は、単年度で完結するものではないため、実施委員が所属する各校では、本開発プログラムを毎年の教員研修として継続して実施する。</p> <p>④次年度以降における課題・展開</p> <p>職業人共通に求められる「基盤力」の醸成は、特定教科として実施できる類いの題材ではなく、学校の教育理念に及ぶまでの学校全体での取り組みが必要であるため、兵庫県専修学校各種学校連合会の会員校の設置者校長を中心に、本プログラムの普及を働きかける予定である。同連合会が毎年夏に実施している教員研修会に組み込む事が出来ないか等働きかけたい。</p>			
<p>3. 事業の実施に関する項目</p> <p>①実態調査（職種を問わず全職業人共通に求められる基盤的な力の抽出）</p>			

職業人共通の基盤力を抽出するためのアンケート調査を実施したところ、専修学校42校、各種学校8校の計50校からの返答が有り、3校のヒアリング調査と合わせ、職種を問わず全職業人共通に求められる基盤的な力は、問題発見力を含む「問題解決力」が最も重要であることを認識した。また、全国の専修学校等の基盤力向上に向けた取り組みについての実態調査を行い、専修学校12校、大学14校に関する事例を知る事が出来た。

②プログラム開発

調査検討の結果、職種を問わず全職業人共通に求められる基盤的な力のうち最も大事な力、学生の「問題解決力」を醸成する為に、まずは教員が持つべき知識や指導法を習得できるプログラムを開発することとなった。プログラムは、1.専門学校はどうあるべきか 2.顧客に満足を提供し続ける事ができるスキル 3.学生のヒューマンスキルを伸ばすためには 4.プロフェッショナル人財育成の為に教員の問題解決思考 5.プロフェッショナル人財育成のための教員のコミュニケーションのあり方 の5大項目で構成され、A4サイズ100項のテキスト

③実証講座

兵庫県専修学校各種学校連合会会員校に広く参加を呼びかけたところ、実施委員、分科会委員、兵庫県専修学校各種学校連合会事務局を含む、合計24名の参加があった。2日間計12.5時間を要する長丁場の講座であったが、講義が行われた後、グループで意見交換(討議)を行った後、その内容を全体発表する形で行われ、全参加者による情報共有を行う形式をとったため、現場の実態や施策に対しての忌憚のない意見交換が実施された。

④成果報告

事業計画概要説明、調査報告、プログラム開発・実証実験報告、質疑応答、今後の展望の構成で実施。参加者は、兵庫県下の専修学校・各種学校・高等学校へ広く呼びかけ募集した。